
広島 の ボ ー ト

○ 広島 の ボ ー ト の 始 ま り

明治 24 年ごろ、広島師範（現在の広島大学）が元安川で漕艇を始めた。

明治 31 年には京橋川上流で在広学生連合大競漕会が開かれたのを始め、明治の広島では、水上運動会として漕艇競技が盛んに行われた。

○ 県内クルー・選手の活躍

大正から昭和にかけてやや衰退した広島の漕艇界であったが、戦後、昭和 24 年には広島県漕艇協会（平成 10 年に「広島県ボート協会」に名称変更）が設立され、昭和 26 年に広島で開催された第 6 回国体のオープン競技で鈴ヶ峰高校が女子ナックルで優勝して復活した。

以後の国体及びインターハイでの広島県勢の活躍ぶりは次のとおりです。

昭和 29 年 北海道国体で、廿日市高校OBが 3 位入賞。

昭和 31 年 第 9 回朝日レガッタの高校男子ナックルで廿日市高校定時制が優勝

昭和 35 年 第 13 回朝日レガッタの高校男子ナックルで廿日市高校定時制が優勝

昭和 36 年 秋田国体で、舟入高校が 2 位入賞。

昭和 43 年 広島インターハイの漕艇競技が、宮島口コースで開催される。

昭和 45 年 岩手国体で、廿日市ローイングクラブが 3 位入賞。

昭和 47 年 鹿児島国体で、廿日市ローイングクラブが 3 位入賞。

昭和 54 年 宮崎国体で、三菱重工三原が 2 位入賞。

昭和 63 年 インターハイ（琵琶湖）及び京都国体で、広島皆実高校が舵手つきフォアで優勝。

平成 6 年 第 12 回アジア競技大会広島が県内各地で開催された。

ボート競技は福山の芦田川漕艇場であり、国内有数の A 級ボートコースとなった。

平成 7 年 愛知国体で成年女子シングルスカルの市川由貴選手が 8 位入賞。

平成 8 年 2 巡目となるひろしま国体の漕艇競技が福山市芦田川漕艇場で開催され、少年女子で、シングルスカルの川元寛美選手（福山高校）が優勝、舵手つきフォアの広島選抜が 4 位入賞して種別優勝する活躍をみせた。そのほか成年男子で、シングルスカルが 6 位、ダブルスカルが 8 位に入賞するなど、広島県は、女子総合（皇后杯）で 2 位となり、男女総合（天皇杯）でも 8 位に入賞する好成績を残した。

平成 9 年 大阪国体で成年女子舵手付フォアの広島選抜が 8 位入賞。

平成 12 年 富山国体で、少年男子シングルスカルの川元英敏選手（福山工業高校）が優勝、少年女子シングルスカルでは占部真理子選手（福山明王台高校）が 5 位入賞。

平成 17 年 第 58 回朝日レガッタのマスターズ男子ナックルで廿日市ウォーターフレンズクラブが優勝

平成 18 年 兵庫国体で、少年女子舵手つきクォドルプルの広島選抜が優勝。

平成 19 年 インターハイ（佐賀県唐津市）で、女子舵手つきクォドルプルの宮島工業高校及び女子シングルスカルの上田 岬選手（宮島工業高校）が 4 位入賞。秋田国体で、少年女子シングルスカルの上田 岬選手（宮島工業高校）が 6 位入賞。

平成 23 年 山口国体で少年男子舵手付クォドルプルの宮島工業高校が準優勝の 2 位。

平成 24 年 宮島工業の男子ダブルスカル（野本耕司 矢野哲圭）が、平成 23 年度高校選抜（天竜市）、インターハイ（新潟県）、岐阜国体の 3 競技で優勝し、全国大会 3 冠を達成した。

平成 26 年 長崎国体で少年女子シングルスカルの川田ひな子選手（宮島工業）が 5 位。

平成 29 年 愛媛国体で少年男子ダブルスカルの広島選抜（佐伯、工大高校・嘉屋、宮島工業）が 6 位
少年男子シングルスカルで大田龍選手（宮島工業）が 7 位入賞。

平成 30 年 第 38 回全日本中学選手権大会 男子シングルスカルで西谷光貴選手（福山 BC）第 1 位（決勝レ
ース中止） 第 96 回全日本選手権大会 女子エイトで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）
第 1 位 男子ダブルスカルで嘉屋春樹選手（日本大学・宮島工業高校）第 3 位 第 45 回全日本
大学選手権 男子シングルスカルで野口皓平選手（広島大学）第 2 位 女子舵手なしペアで福原
萌意選手（立命館大学・廿日市高校）第 2 位

令和 2 年 第 98 回全日本選手権大会 女子エイトで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）第 1 位
第 47 回全日本大学選手権大会 女子舵手なしペアで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）
第 1 位 第 98 回全日本選手権大会 男子舵手なしペアで嘉屋春樹選手（日本大学・宮島工業）第 5
位 第 47 回全日本大学選手権 男子シングルスカルで松口海人選手（広島大学）第 6 位

令和 3 年 第 99 回全日本選手権大会 女子ペアで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）第 1 位
第 48 回全日本大学選手権大会 女子ペアで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）第 1 位
第 99 回全日本選手権大会 男子ペアで嘉屋春樹選手（日本大学・宮島工業高校）第 4 位
第 48 回全日本大学選手権大会 男子ペアで嘉屋春樹選手（日本大学・宮島工業高校）第 3 位
第 99 回全日本選手権大会 男子ダブルスカルで佐伯真博選手（東京経済大学・広島工業大学高
校）第 5 位 第 48 回全日本大学選手権大会 男子ダブルスカルで佐伯真博選手（東京経済大学・
広島工業大学高校）第 2 位

令和 4 年 第 100 回全日本選手権大会 女子ペアで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）第 2 位
第 49 回全日本大学選手権大会 女子ペアで福原萌意選手（立命館大学・廿日市高校）第 2 位
男子フォアで平田遥登選手（東京経済大学・広島工業大学高校）第 3 位 第 63 回全日本新人選手
権大会 男子舵手付フォアで平田遥登選手（東京経済大学・広島工業大学高校）第 2 位 第 31 回
全国中学新人競漕大会 男子ダブルスカルで加藤颯之介助、川上亮太選手（福山 BC）が第 3 位
第 18 回全国中学校選抜ボート大会 男子シングルスカルで伊藤太陽選手（宮島 RC）が第 6 位

令和 5 年 第 43 回全日本中学選手権競漕大会 男子シングルスカルで伊藤太陽選手（宮島 RC）が第 5 位
第 47 回全日本高等学校選手権競漕大会 男子ダブルスカルで植岡悠人、中島芥莉選手が第 5 位
第 50 回全日本大学選手権大会 男子フォアで平田遥登選手（東京経済大学・広島工業大学高校）
が第 6 位、男子ダブルスカルで小田悠陽選手（立命館大学・宮島工業高校）が第 6 位、男子シン
グルスカルで鈴木亮真選手（広島大学）が第 6 位、男子クォドプルで向原巧選手（関西大学・崇
徳高校）が第 8 位
2023 特別国体で広島選抜（植岡、宮島工業・北村、廿日市高校）が第 8 位
第 32 回全国中学新人競漕大会 男子シングルスカルで川上亮太選手（福山 BC）が第 5 位
第 19 回全国中学校選抜ローイング大会 男子シングルスカルで川上亮太選手（福山 BC）が第 4 位
第 35 回全国高等学校選抜ローイング大会 男子舵手付クォドプルで宮島工業高校第 7 位

○ 広島市民レガッタの歩み

昭和 52 年	第 1 回	広島市民レガッタを、51 クルーが参加して庚午橋下流で開催。
昭和 54 年	第 3 回	現在の山手橋上流コースに移った。(61 クルー参加)
昭和 58 年	第 7 回	これまでの 60 クルー程度から 20 クルー増えて、84 クルーの参加となった。
昭和 59 年	第 8 回	シングルスカル種目をとりやめた。
昭和 60 年	第 9 回	102 クルーが参加し、初めて 100 クルーを超えた。
昭和 61 年	第 10 回	第 10 回記念大会を開催。
昭和 63 年	第 11 回	会場を右岸から左岸（中広町側）に移し、秋季に開催。
平成元年	第 12 回	再び春季に開催することとした。
平成 4 年	第 15 回	参加が 118 クルーの過去最高となった。
平成 5 年	第 16 回	ちびっ子エルゴ大会開催。
平成 6 年	第 17 回	O B リーグ復活。
平成 9 年	第 20 回	親子やチビッコの体験試乗を開催。
平成 10 年	第 21 回	笹川スポーツ財団 S S F スポーツエイド事業の対象となった。
平成 11 年	第 22 回	初めて小中学生のジュニアレースを実施し、4 クルーの参加で 1 レース行った。
平成 13 年	第 24 回	地元の大学・クラブの新人対抗レースを行った。
平成 14 年	第 25 回	艇の老朽化や運営スタッフ減などによる広島市民レガッタの存続の危機を訴えた。
平成 16 年	第 26 回	規模を縮小して艇の老朽化や運営スタッフ減に対応し、1 年ぶりに開催した。
平成 18 年	第 28 回	第 1 回開催から 30 年目。
平成 21 年	第 31 回	県内各高校大学ボート部 OB, OG 団体が運営スタッフとして全面的にサポートし開催。
平成 24 年	第 34 回	広島南道路架橋工事の関係で 9 月開催。 カーボン製ナックルフォア「太田川 1 号」および「太田川 2 号」の 2 艇を購入し、 借艇 2 艇と共に、カーボン艇によるレースを開始した。
平成 25 年	第 35 回	ホームページ開設、インターネットによる情報発信開始。 カーボン製ナックルフォア「太田川 3 号」を購入、更に個人からの寄贈艇「双葉」 が加わり、カーボン艇による 5 艇レースが可能となった。
平成 28 年	第 38 回	新たにカーボン製ナックルフォア「太田川 4 号」, 「太田川 5 号」を購入し、県ボ ート協会の保有艇による 5 艇レースが可能となった。
令和 元年	第 41 回	カーボン製ナックルフォア「太田川 6 号」を購入。 借艇(OB 団体) 2 艇と共に、カーボン艇のみでレースが可能となる。
令和 2 年	第 42 回	新型コロナ禍で大会中止。
令和 3 年	第 43 回	新型コロナ禍で大会中止。
令和 4 年	第 44 回	新型コロナ禍で春開催案内, 秋延期開催案内するも、必要催行クルー数に届かず中 止。出漕申込クルー内で秋に乗艇体験会開催。
令和 5 年	第 45 回	新型コロナ感染症が 5 類感染症に移行後、開催案内するも、必要催行クルー数に届 かず中止。出漕申込クルー内で乗艇体験会開催。
令和 6 年	第 46 回	新型コロナ禍による中止を経て 5 年ぶりに開催。